



Heartbeat

BLACK LAGOON / SERZHANT X KAPITAN

成人向
ADULT ONLY

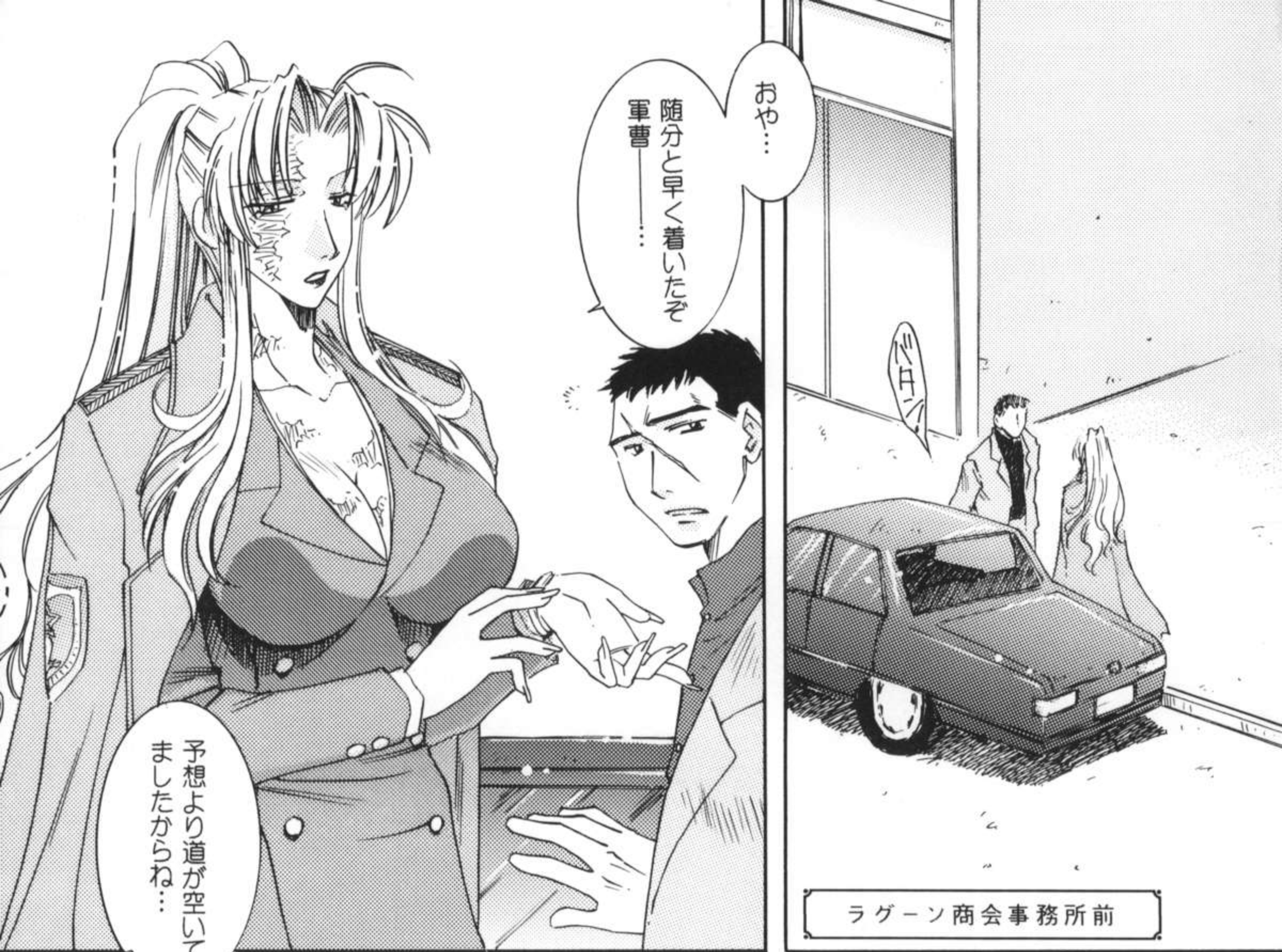


初めましての方もそうでない方もコンニチワ。
HIDERO です♪軍曹と大尉をイチャイチャさせてる
うちに、気が付けば5冊目になりました～♪読んで下
さってる方々に超感謝!!であります♪
ブラクラ本家の方も、新章開始とかブルーレイ発売と
か3期も!とかアレコレ盛り沢山で楽しみですね♪
ええまあ…あたくしは主に大尉と軍曹がイチャイチャ
してくれるのを楽しみにしてるんですが♪執務室でし
っぽりと～♪とか～♪アフガンでしっぽりと～♪とか
～♪(不謹慎) 兎にも角にも大尉と軍曹が同じコマに
納まってればそれだけでシアワセです…♪死比…♪

そんな感じで今回の軍曹×大尉イチャイチャ本。いつ
もは1冊まるまるエロ漫画ですが、今回はちょっとス
ケジュール的にピンチな感がありまして。漫画だっ
たりちょい小説的なのだったりと細切れな感じになっ
ちゃった上にエロも少なめでしょんぼりです。軍曹にも
っとアレコレさせてあげたかった YO!!大尉のおっぱ
い描きたかった YO!!同人にしろ Web 漫画にしろ、も
う少し計画的にお描きなさいという事ですね。うん。
次回はきっと軍曹と大尉が全裸で又ル又ル絡み合うよ
うなのが描けると良いなあ…。(切実) ホントは予定し
てたのが2パターン程あったんですが、どちらも長い
話になりそうだったのと、もうちょっとアレコレ練り
たいな—と思ったので今回は見送り。次回に持ち越し
となりました。(その「次回」があるかわからないので
見送りにはしたくなかったんですが—…)

そんな感じで小ネタばかりちまちま詰め込んでみまし
たが、軍曹と大尉のイチャイチャをお楽しみ下さいま
せ～♪

2009.11/HIDERO 拝xxx



おや...

随分と早く着いたぞ
軍曹...

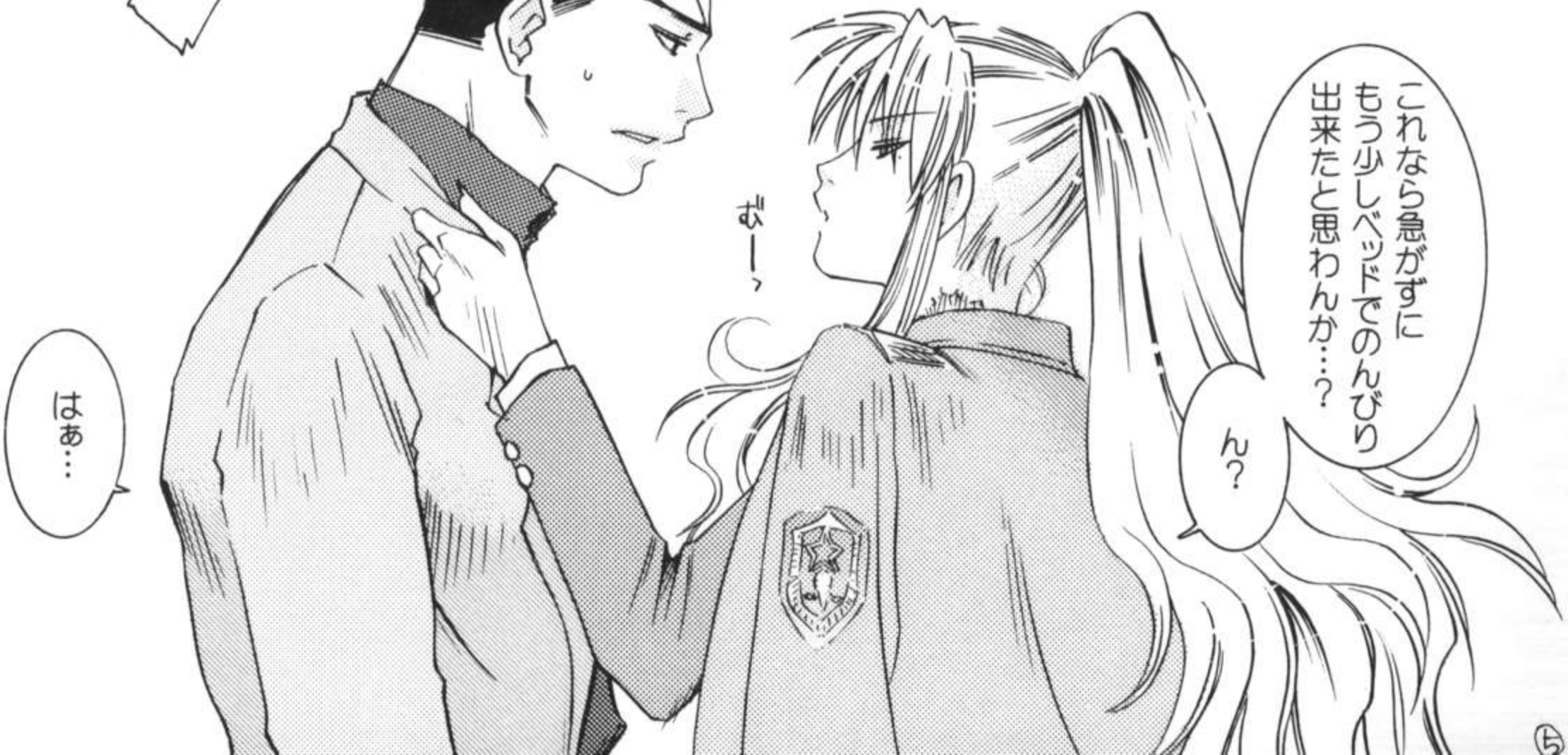
予想より道が空いて
ましたからね...

ラグーン商会事務所前



遅れるよりは
良いので...

わ...!!



「これなら急がず」
もう少しベントのんびり
出来たと思わんか...?

ん?

はあ...

ん?



♪

た

た
♪

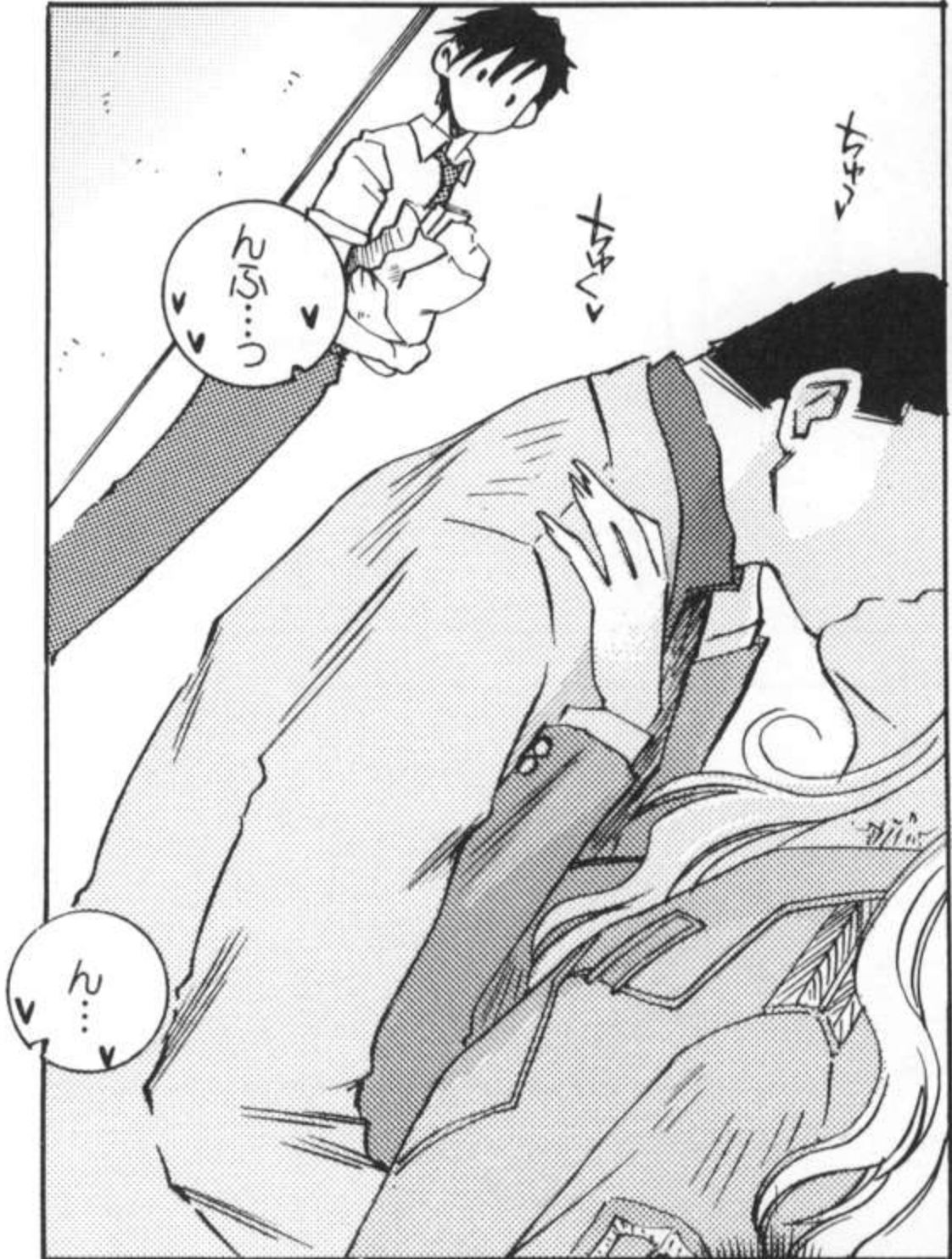


ああ…バラライカさん達
かな…

確か今日仕事の
打ち合わせに来るって…



ん…



何が起きてるか
良く判らないけど
とりあえず身を隠す
岡島氏。





なんだよアホ...



危ないッ!!!!

うわー



困ったなあ...

終わるまで待つか...



大尉殿...

ん?



うっかり声掛けちゃう所だった!!!!



あ

ふかっ



これ以上するじ…
その氣になりませよ
——…

ほお…

KEKA



ズン

ぽんぽんぽん…

その氣じゃあないのか
…軍曹——…?

ん…

ん…



ち…

ぽ

ぽ

ぽ

ちよっ！…
それ以上は
まずいです!!!

ボリスさん待って
——…!!!!

ん…



ア

はじ...

はじ...

ア
ア
ア
ア
ア

ア
ア
ア
ア
ア

ア
ア
ア
ア
ア

ア
ア

ん?
大尉殿...ロックの
ようですが...

何?



あらホント



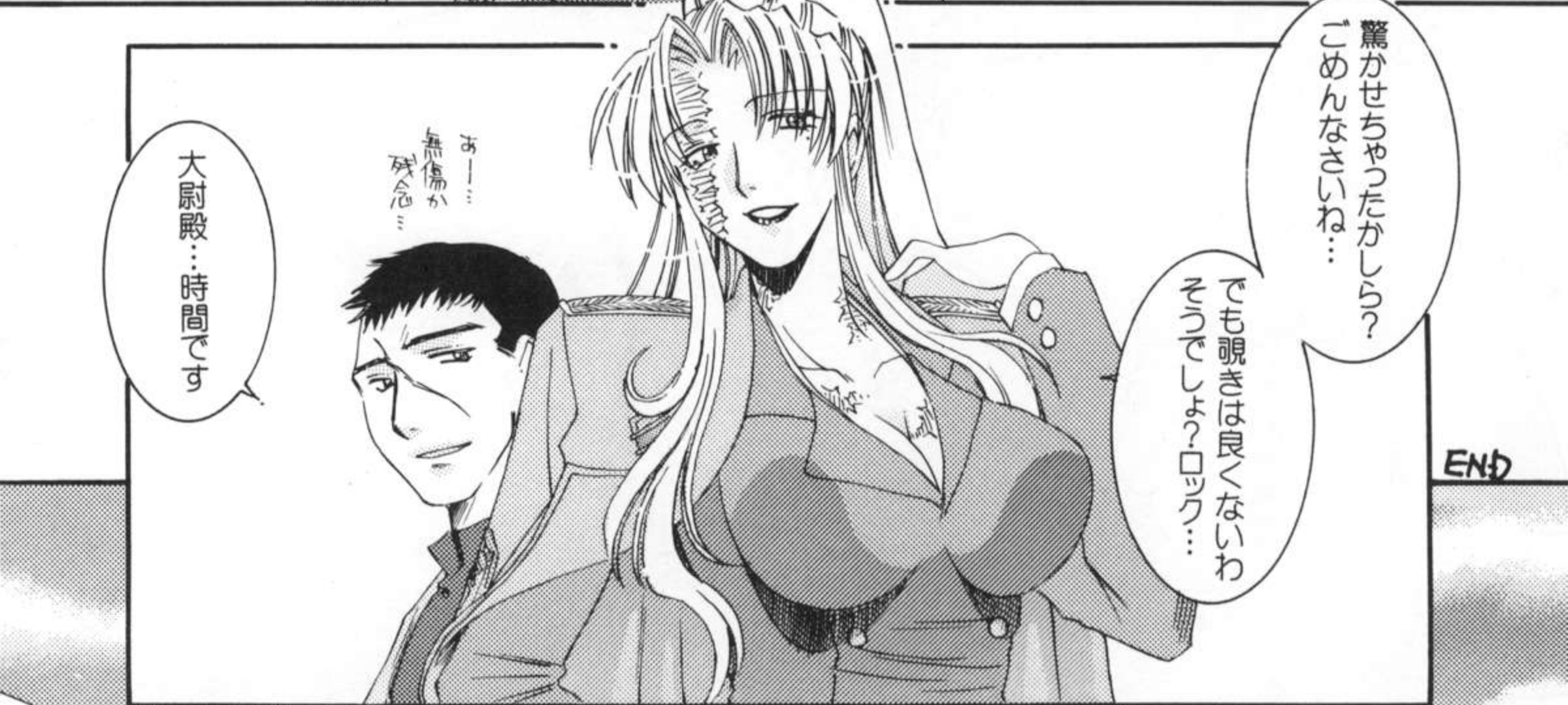
こんにちは…
バラライカさん…

うわ…
うわ…

う…

うわ…
うわ…

あ…
あは…



驚かせちゃったかしら？
ごめんなさいね…

でも覗きは良くないわ
そっぴゃ〜ロクク…

大尉殿…時間です

あ…
無傷か
残念…

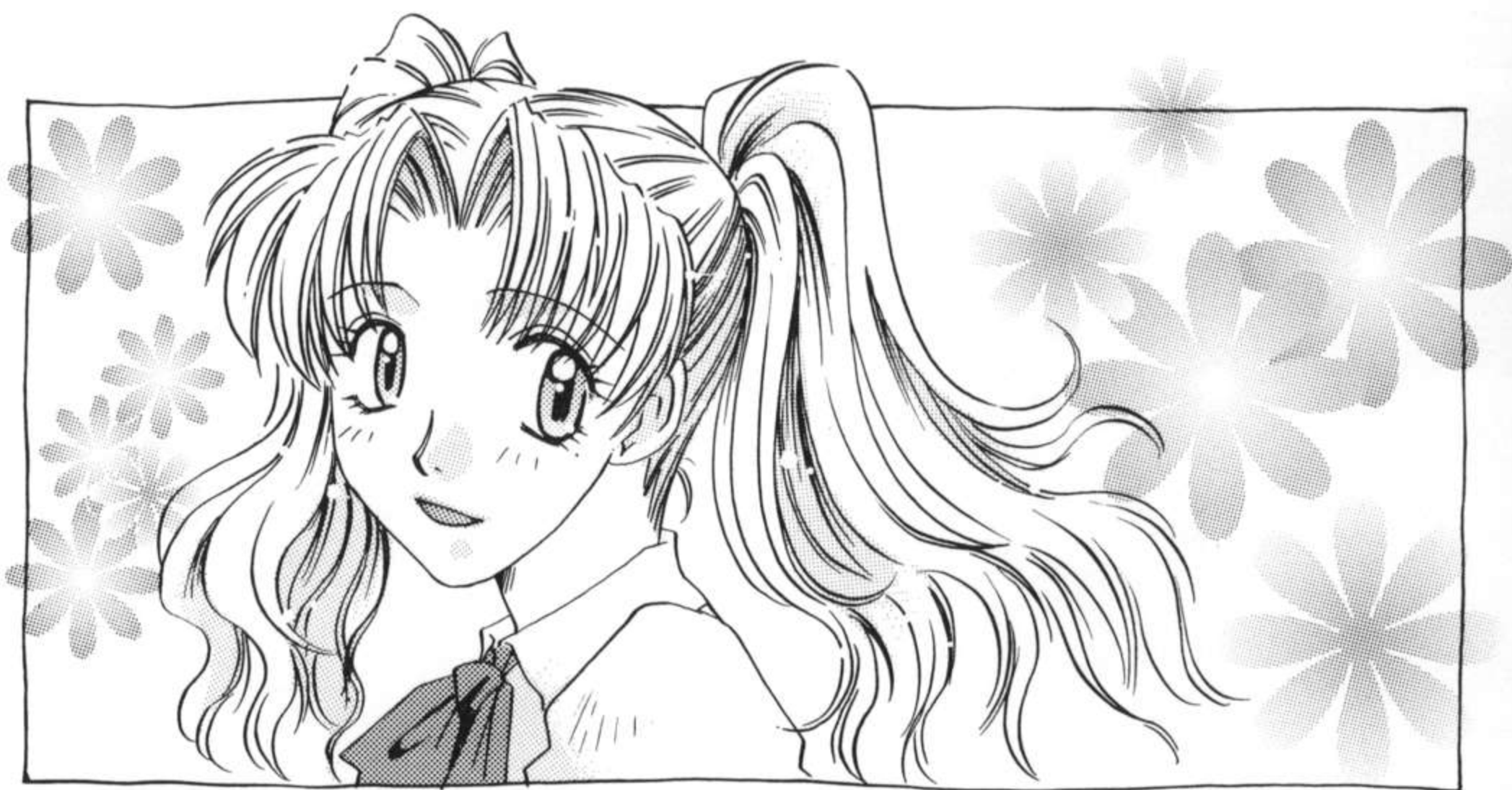
END



ん…
では仕事に戻るか…

Previous >>>

イチャイチャしてる大尉&軍曹を出歯亀な岡島君でした♪たまには大尉もラグーン商会の事務所に遊びに来たって良いんじゃないかしらあとか試してみたり…♪軍曹はきっと大尉とドライブデート♪とかウキウキしてると思います！軍曹的には毎日がデートですよ…♪（凄いいシアワセ…）車がホントに描きたくなくて出来るだけ小さく…！と思って描いたのがあんな感じです。カーセックスとかさせてあげたいんですがねー。HIDEROの技量不足で無理そうよー。軍曹ゴメン…！でもって…オフ原稿で久々に描いた岡島君が出歯亀ですかとかは言いつこ無しですよ♪何気に美味しいポジションじゃないですかっ♪あたくしも覗きたい…！そして撃たれたい…!!!（変態？）ちなみに岡島君が落としたのはプリングルズ。コンソメ味とかですかね。紙袋の中身はレヴィたん頼まれた煙草（カートン買い）と後はスナック類だと思われます。もっときちんと描きたいものでございます。



<<< Next

ロリライカたんとボリスお兄ちゃんイチャイチャしてます♪ホントは漫画にしたかったんですが時間が無さ過ぎて涙目でSSになりました。サイトの方で改めて漫画にするかもしれないかも…!?とありあえず今回はSSで。風邪で寝込んでいるボリスお兄ちゃんのお見舞いに来たロリライカたん。ボリスお兄ちゃんの口車に上手い事乗せられちゃってあんな事やこんな事をハハハ…。な感じでお贈りいたします♪ボリスお兄ちゃんはもやしっ子のわりに巨根で絶倫と言うアンバランスさが案外コンプレックスだったりすると良いと思います♪入隊したての頃は上官の方々に狙われなかったのかちょっと心配ですが策士なので案外上手い事立ち回ってたのかな？まあやられちゃってもそれはそれで…♪（良いのかよ…）そんな訳でもおちょっと文字ばかりの頁が続きます。挿絵もう少し描きたかったなー。残念。

「お兄様…?」

もしかしたら眠っているかもしれない。そう思いノックはせず小さく扉を開き、呼びかけた。

室内は窓辺から差し込む柔らかな光に包まれている。部屋の奥に据えられたベッドの上に人影が見える。細身の少年が半身を起こし、枕を背もたれに膝の上に置いた本の頁を退屈そうにめくっている。

「ソーニャ…?」

頁をめくる手を止め、ドアの隙間からひょっこり覗いた頭に少々の驚きの混ざった声で呼びかけた。

呼びかけられた少女が申し訳無さそうにドアの陰に身を隠す。

「ごめんなさいノックもせずに…お兄様眠ってらっしゃるかもしれないと思ったから…」

隠れたつもりだが、結び上げた髪と赤いリボンがドアの陰から覗いている。その様子に噴出しそうになるのを必死で堪える。

「大丈夫だよ。おいで」

少女が嬉しそうに室内に入る。ドアが小さな音を立てて閉まる。

「うん…昨日よりはね——…」

額に小さな手が触れる。

「でもまだ少し熱っぽいわ。起きて本を読んでいてはダメよ。ちゃんと寝ていないと」

「———そうだね…」

額に触れていた手が離れる。少年の視線がそれを追う。

「じゃあ、ソーニャの言うとおりに眠るから…おやすみのキスをして」

少年の言葉にクスリと笑う。

「もう。お兄様ったら子供みたい」

身を乗り出し、少年の頬にキスをする。

「おやすみなさい…お兄さ——…」

言葉が遮られる。

一瞬何が起こったのか理解できなかった。

「———お兄様…?」

解放されてようやく唇を塞がれていた事に気付く。少年の指が優しく頬を撫でる。

「これ…おやすみのキスとは違うわ…」

少女が頬を赤く染め、目を伏せて呟いた。

「嫌だった…?」

少年の問いに小さく首を横に振る。二つに結び上げた髪がユラユラと揺れる。

「それなら…もう一度しても良い…?」

耳まで赤く染め、少女が小さく頷いた。頬を撫でていた指が顎を持ち上げる。唇が優しく重なり合う。

「ん……—…お兄様…ダメ…もう…息が…苦し…」

さっきよりも長い口付けに耐え兼ねて唇を開く。

薄く開いた唇に少年の舌先が触れる。少女の身体が僅かに強

「お兄様…お熱はもう下がったの?」
ベッドの端に腰掛け、少年の顔を覗き込む。

張る。

『……お兄様の舌……』

初めて味わう感触に、少女の胸の奥がざわめいた。

ついでにようなキスが繰り返される。時折掠めるように触れる舌の感触に、ソクリとする感覚が少女の背筋を這い上がる。唇を開きおすおすと舌を差し出す。少年の腕が少女を抱き寄せ、より深く唇を重ねていく。舌を絡め合う濡れた音と、時折漏れる互いの息遣いが静かな室内に微かに響く。

長いキスを終え、唇が解放される。少女は名残惜しげに潤んだ瞳で少年を見上げる。

「ソーニヤの身体……とても熱いよ……」

腕の中にすっぽりと納まったままの少女に優しく微笑みかける。赤く染まった柔らかかな頬を指先で撫でる。

「熱くて……ふわふわするの……お兄様のお熱がうつったみたい……」

少女の額に優しく口付ける。

「じゃあ……熱が冷めるように……してあげるよ……」

身に纏っていた衣服がベッドの下へと落ちる。触れ合う肌の温もりが心地良い。

「寒くない……?」

問い掛けられ、少女が小さく頷く。少し戸惑いの表情を見せる少女の頬に口付けを落とす。頬に触れていた唇が耳朶を掠め首筋を辿る。

「あ……」

少女の唇から微かな声が漏れた。冷たい指先がまだ幼い胸の膨らみをやんわりと撫でる。

「あ……っ……ん……お兄様……くすぐったい……」

ツンと尖った薄桃色の乳首が温い口中に含まれる。初めて与えられる慣れない刺激に身を振る。肌をなぞる指先が脇腹

を辿り太股の付け根をなぞる。まだ覆い隠す物の無い割れ目を指の腹で優しく撫で下ろす。

「あ……っ……お兄様……そこは……っ……」

唇を柔らかく塞がれ言葉が途切れた。滑り込んで来る舌に、口中を蹂躪され思考すら途切れる。

割れ目をなぞる指が花弁のようなそれを割り開く。潤み始めた秘肉が戦慄いた。浅く差し込まれた指が、狭い入り口を解すようにゆっくりと蠢く。

「ん……はあ……っ」

少女の唇から甘く切なげな吐息が漏れる。

「ソーニヤのここ……とても狭いね……」

薄く笑みを浮かべると少女の上から身を起こす。潤んだ蒼い眼が少年を見上げる。

「ダメよ……お兄様……そんな所……」

「どうして……とても可愛いよ……」

細い脚を持ち上げ大きく開かせる。下腹部に顔を埋め、割れ目に舌先を這わせる。

「……っ!!……だ……だ……だ……そんな所……汚いわ……!」

少年の頭を押し退けようと伸ばした手がつかまれる。少女の制止には耳を貸さず、尖らせた舌を狭い入り口へと差し入れる。柔らかかな粘膜とザラリとした舌が擦れ合う。

「お兄様……だ……めえ……っ……!」

深く口付けるように柔らかかな粘膜に舌を絡め、音を立てて吸う。下肢に与えられる刺激から逃れようと少女がイヤイヤと首を横に振る。拒む声が徐々に上擦る。

差し入れた舌がヒクヒクと締め付けられた。ゆっくりと舌を引き抜く。割れ目を舐め上げ、赤く充血した肉芽を舌先で弾いた。少女の身体が僅かに跳ねる。身を起こし、達した余韻に朦朧とする少女を見下ろす。きつくシーツを握り締める指を解いてやる。



「お兄様…まだ…お熱が下がらないみたいなの…それに…こ
こ…この奥が——」

指先に触れた少年の手を握り返し、自身の下腹部へと導く。

「——…ムズムズして…何だか…切ないの…」

「さっき舌で触れた所よりもずっと奥…?」

少年の問いに小さく頷く。

「ここ…?」

熱い塊が押し当てられ、秘肉がクチュリと音を立てる。

「もっと…奥の方が——…あっ…!」

狭い入り口が押し広げられる痛みに少女が眉をひそめる。

「力を抜いて…ソーニャ…ムズムズして…切ないのはここ—
—…?」

少女が弱々しく首を横に振る。

「も…っ…もう少し…奥…の方…っ…でも…っ…お兄様…っ
…あ…あ…っ…痛——っ…!」

きつく目を閉じ、痛みを堪える。うっすらと汗の滲んだ少
女の額に少年の額が触れる。少年の肌の熱さに少女が薄く瞼
を開く。

「お兄様も…お熱が上がっているみたい…」

少女の手が少年の頬を撫でる。

「——…お兄様も…ムズムズして…切ないの…?」

少女の言葉にクスリと笑う。

「凄くムズムズしているよ…ソーニャの中…凄く熱くて気持
ちが良い…」

少年が腰を引く。熱い塊が引き抜かれていく感触に少女が
息を呑む。途中まで引き抜かれた塊が、一呼吸置いて再び押
し込まれる。浅い抜き差しを何度か繰り返すうちに、挿入を
拒むように締め付けていた秘肉から愛液が滲む。ネチネチと
音を立て、徐々に抜き差しを深くしていく。

「ああ…んっ…!…届きそう…!お兄様…奥の…ムズムズす

るトコに…っ…!!…あ——…っ!」

最奥がコツリと優しくノックされる。与えられる刺激に身
体を仰け反らせ、少女の腰が僅かにベッドから浮く。

「届いている…?…ムズムズするトコに——…」

少女の胸に唇を這わせながら問い掛けた。

「——…っ…んっ…!…き…てる…っ…!熱いのが…届
いて…るの…っ…お兄様——…!」

「まだ痛い?」

「少し…痛いわ…でも——…もっと…お兄様とこうしてい
たいの…」

潤んだ瞳でうっとり少年を見上げる。

「ソーニャ——…」

愛おしげに少女を見つめる。繋がりが合った下肢が更に熱を
帯びる。少年がゆっくりと腰を引く。

「ふあ…っ…あんっ!!」

秘肉を擦られる感触に、少女が甘い声を上げる。

「ダメ…!お兄様…そんなに動いたら——…ああ…だ…め
え…っ…!」

「ダメ…?—…そんな気持ち良さそうにしているのに
…?…見てごらん…」

両脚が持ち上げられ少女の身体がくの字に折れる。大きく
割り開かれた足の間に繋がりが合った箇所が覗く。秘肉が擦ら
れ、熱い塊がゆっくりと引き抜かれる。透明な粘液がねっと
りと絡みついた肉棒が現れる。初めて目にする光景に少女の
視線が釘付けになる。肉棒が再び少女の内に呑み込まれてい
く。内壁を擦られる感触に身体を震わせながらもその光景か
ら視線が逸らせない。

「——…わかる?…ソーニャと…繋がっているの——…」

きつく収縮する秘肉に締め付けられ少年の下肢が疼く。強
引に腰を進めたい衝動を覚えながらも、少女を気遣いなるべ

くゆっくゆと動く。

「もっと……もっと……奥まで……来て……！お兄様と……もっと深く……繋げて……え——！！！」

最奥まで貫かれ、痺れるような快感が背筋を這い上がる。

「ああっ……！——……っ……また……きちやう……っ……！」

「何が……『きちやう』……の……？」

首筋に唇を這わせ、逃さないよう少女の細い腰を抱く。敏感な箇所を探りながら抜き差しを繰り返す。

「さっきの……お兄様の……舌で……された時みたいに……っ……あっ！！！」

最奥をきつく挟られ身体を震わせる。

「舌で……どんな風にした時……？ちゃんと——……教えて……」

ぴったりと腰を密着させ、腰に回した手で肉付きの薄い尻を撫で回す。

「舌で……掻き混ぜられた時みたいに……お腹の中が……キュンて……なっちゃいそう……」

「なっても良いよ……」

少女の言葉にクスリと笑いながら答え腰を引く。始めはゆつくりと。徐々に抜き差しが速くなる。

「あっ……ああ……っ……も……お……だめ——……え……っ……！」

「ソーニャ……っ……一緒に——！！！」

少女の身体がビクンと跳ねる。秘肉にきつく締め付けられ同時に少年の欲望が爆ぜた。熱い塊がビクビクと脈打つ度、少女が身体を震わせる。

「はあん……っ……！お兄様……あ……っ……熱い……っ……熱いのが奥に……い……っ……っ……！！！」

身体を震わせる少女の身体を抱き、最後の一滴まで欲望を注ぎ込む。

熱が引き、ようやく少女の内から自身を引き抜く。割れ目から赤い血の混ざった白濁液が零れ落ちた。

「ねえ……お兄様——……」

身支度を整え、ベッドの端に腰掛けた少女が呟く。

「何？」

少女の髪を結び直しながら少年が答える。

「あの……——……あのね……さっきの……またしてくれる……？」

少女の背後で少年がクスクスと笑う。髪を結び終え、少年の手が離れた。

「ソーニャがしたければ良いよ……」

「本当に……？」

振り返って問い返す少女に優しく微笑んで頷いた。

「でもね、一つだけ約束して……この事は二人だけの秘密だよ……守れる……？」

少年の言葉にココココと頷く。

「守るわ……他の誰にも……絶対に言わない」

「いい子だね……ソーニャ——……」

少年の手が少女の頬に触れる。

「不思議な感じ——……」

うっとり目を伏せ呟く。頬を撫でる少年の手に少女が小さな手を重ねる。

「お兄様に触れられるの……何だかとても——……心地良いの……」

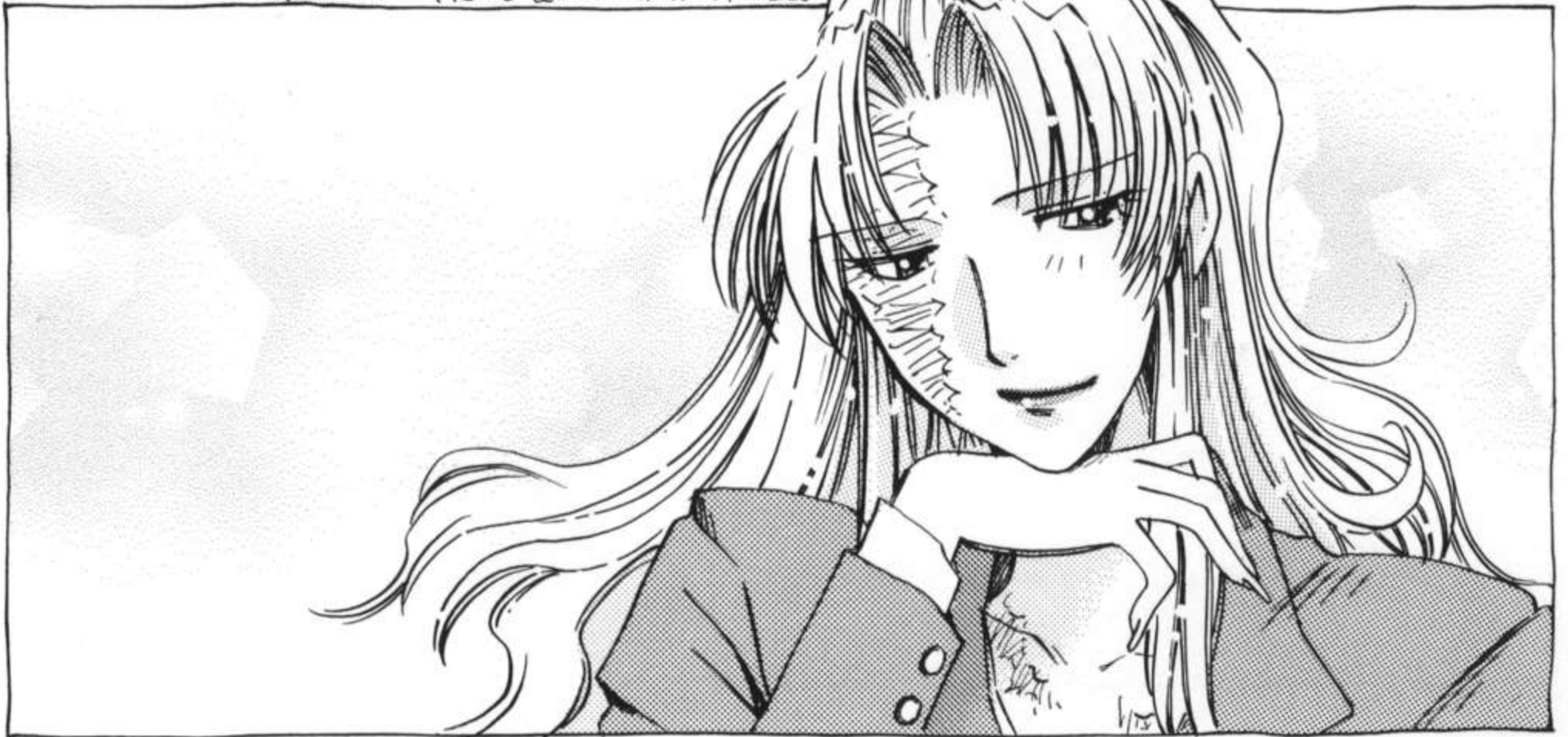
視線を上げた少女の顔が近づいて、少年の唇に触れるだけの優しいキスをする。そのまま息が掛かる程の距離で囁いた。

「好きよ……お兄様——……」

Previous >>>

もうちょっと成長した頃のポリスお兄ちゃんとロリライカたんも書きたかったんですが、あんまり文字ばかりになってもなあと思ったのと時間の都合で断念。そちらはまた機会があれば書いたり描いたりしたいなあとか…。ところでこの頃はまだ「ポリスお兄ちゃん♪」とか可愛らしく言ってますが軍務に就いたら上司と部下みたいになる訳ですよ。最初のうちは照れたりしたんだろかと考えるともうそれだけで楽しくて楽しくて…♪軍曹呼ぶ時うっかり「ポリスお…軍曹…！」とか なっちゃったりしたりね～♪誤魔化そうとして「お…おに軍曹…！」とかになったりもしたとかしないとか♪7比…♪

ところでロリライカたんの愛称はリーニャとマジ良かったのかな…。1/2配。



<<< Next

大尉&軍曹が軍服プレイをなさってるYO♪コミックス9巻、表紙めくったらいきなり大尉が腕組みで仁王立ちしてたので危うくおしっこちびる所でした…！油断できませんねっ!!米兵さんたちとのアレコレ後、大尉&軍曹が事務所にもどってハイ、お疲れさまー。とはならないかなあと。大尉はモヤモヤした気持ちが燻ぶっちゃって悶々としちゃったりね♪なーんて妄想膨らませながら超特急で描きましたとも！ちゃきちゃき指揮を執る大尉の隣で「今夜は軍服プレイかな」なんて不謹慎な事考えてた軍曹の思惑通りです♪効ッ外-♪着衣エチ推奨のHIDEROですが軍服半脱ぎって…はっ…初めて描いたけど…こっ…こんなにエロいとは…！何このエロさ！ちょっと癖になりそうよ～♪スーツも良いけど軍服もね♪みたいな。まあ、大尉は何着ても可愛いんですけどね♪(恋は盲目)

猟犬を追い回すのも
楽ではないな…

疲れた…少し休む

大尉殿

お休みになるのであれば
着替えた方が…

…では…

14



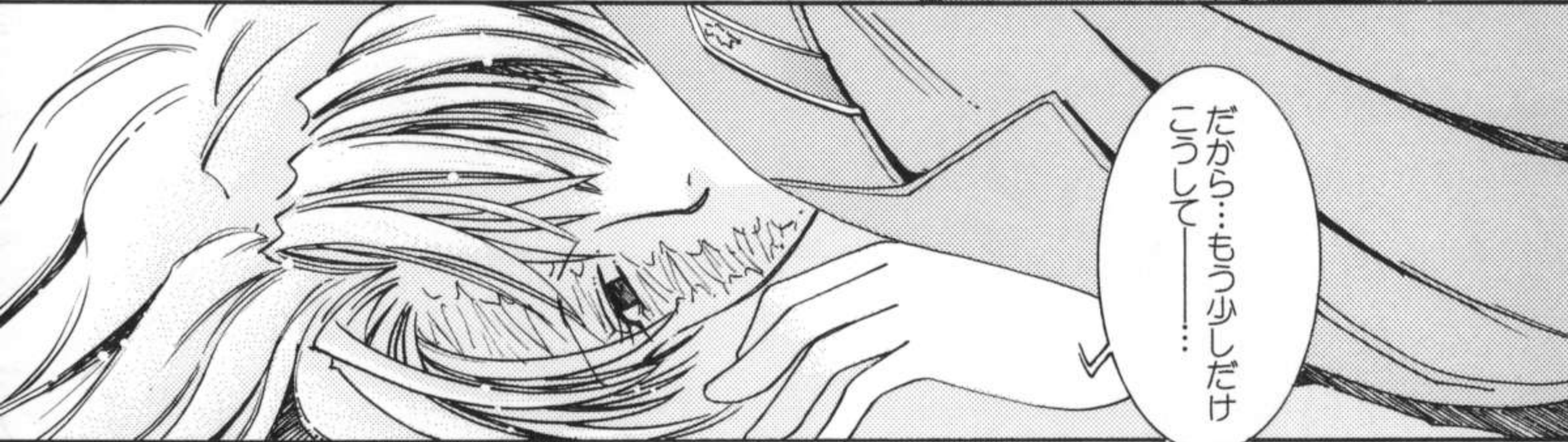
久しぶりだな...

ロナナラ
この街ではない
戦場の臭い...

懐かしいと思わんか?
...軍曹...

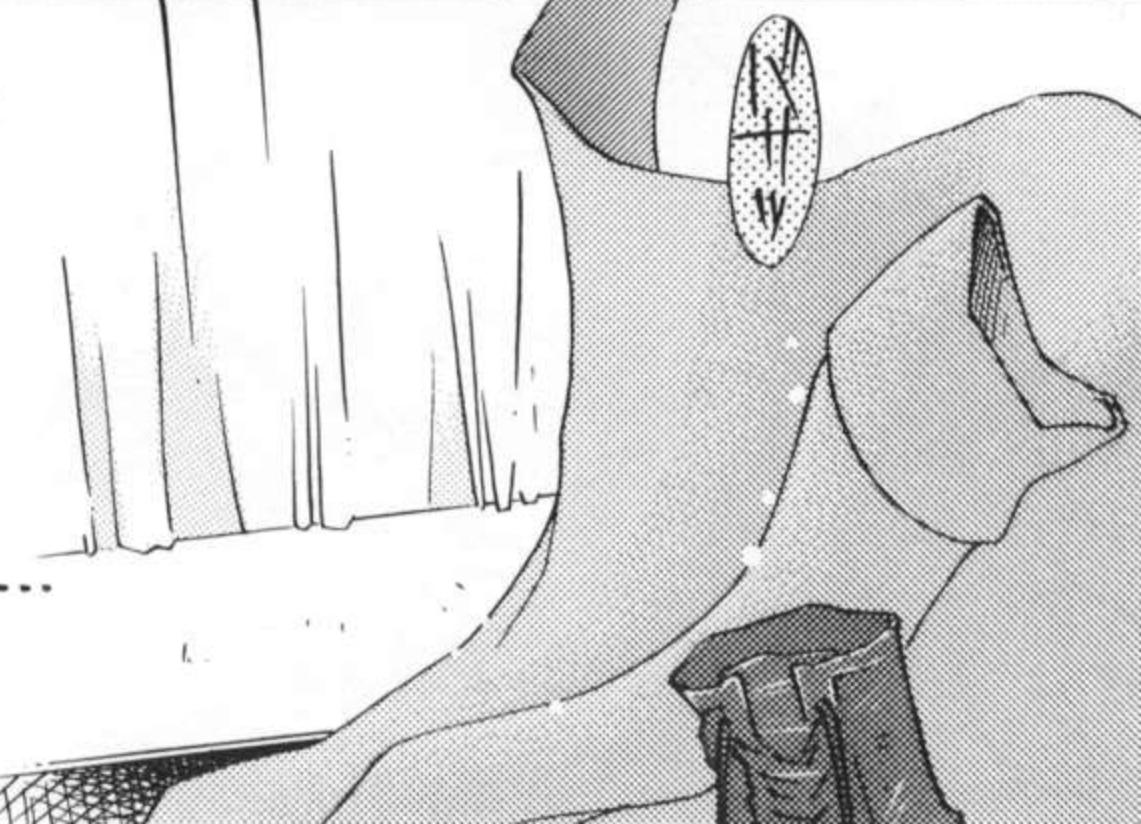
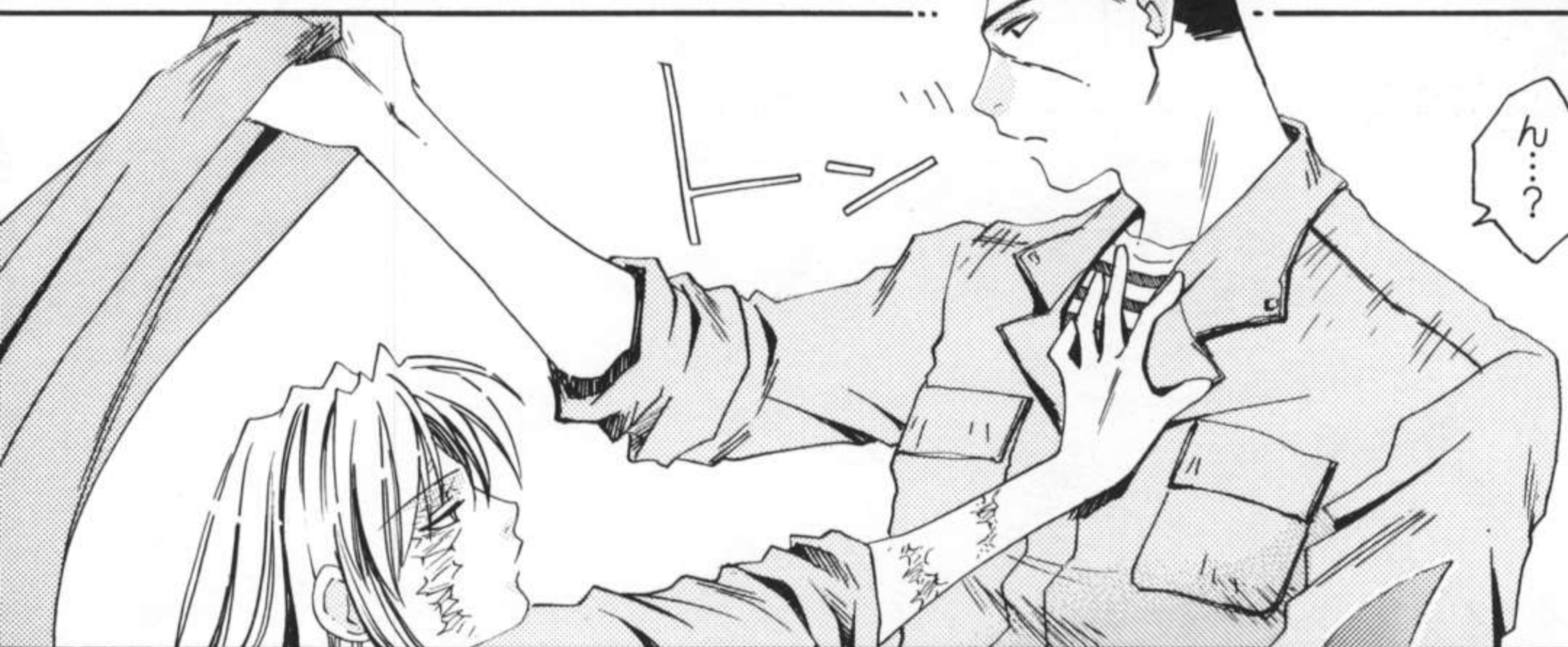


せめて靴だけでも
脱いでください



だから...もう少しだけ
こうして...





「一丁のやせました…」

悪い気はしない
だろう…?

貴様も同じ…戦争の
臭いがする…

ズレ
るんっ

何だ?

大尉…う!

フスフス





靴の紐を解いて
足に履き替える...



靴を...脱いでも...?



ズルズル

ズル

あっ

あっ

ズル

ズルズル

ズル

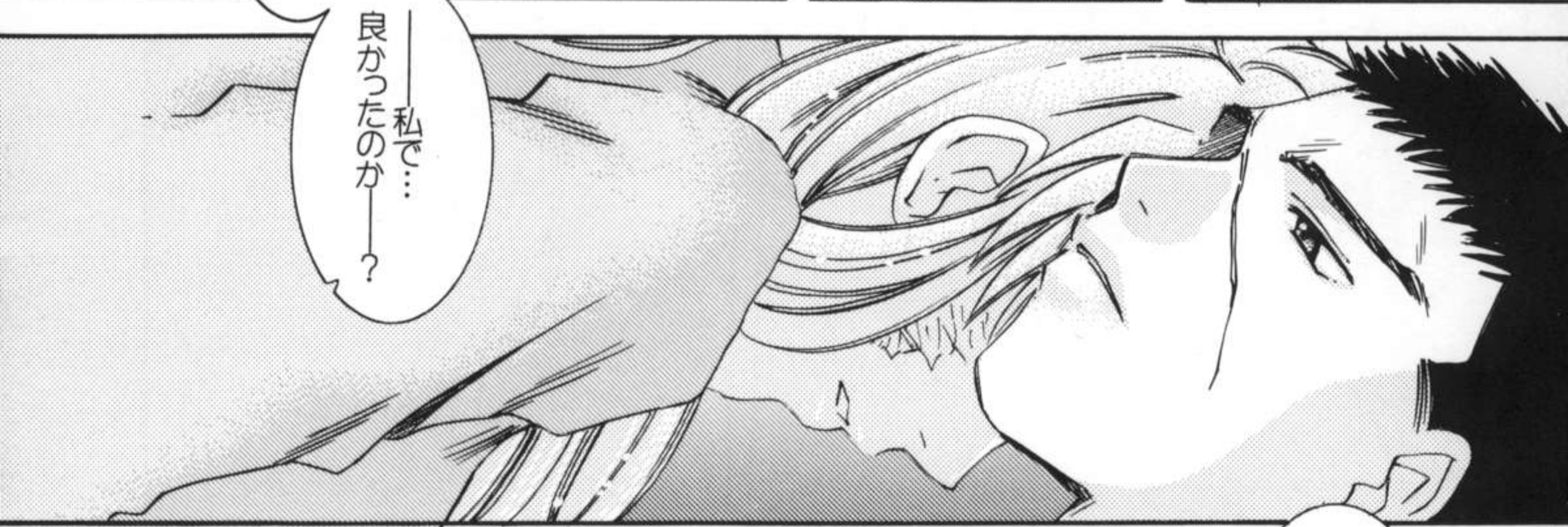


大尉…？

伊す、

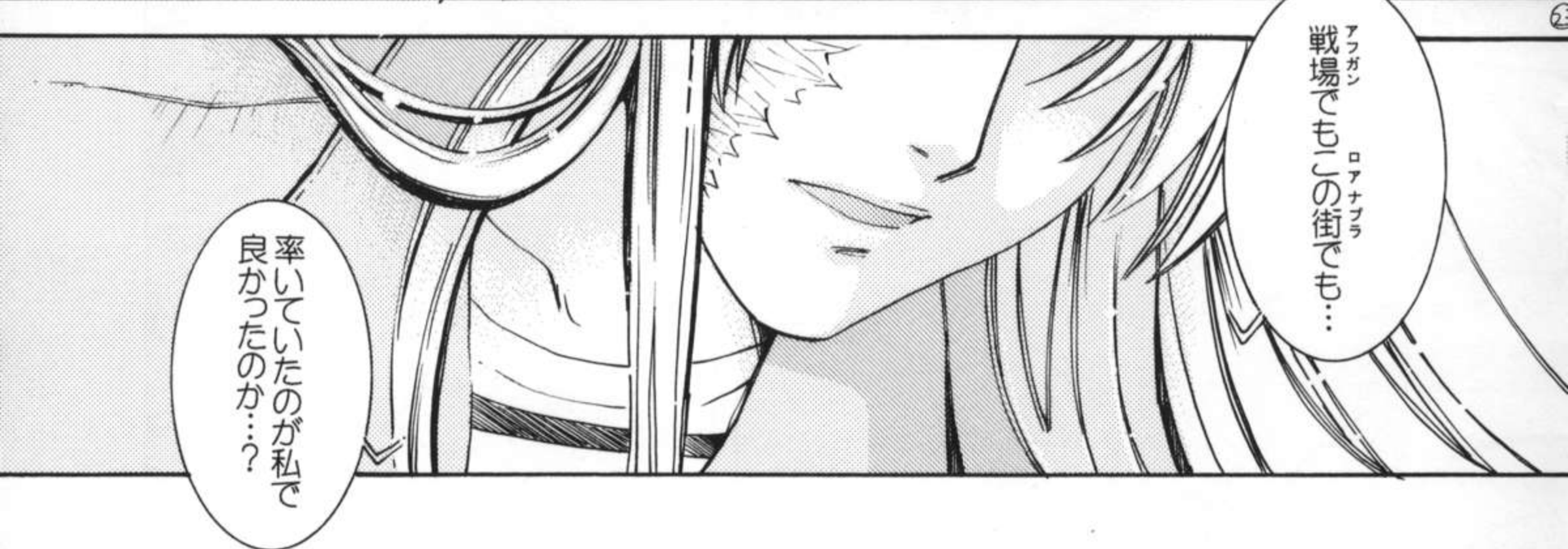
軍曹…

私で…
良かったのか…？



アッガン ロマナラ
戦場でもこの街でも…

率いていたのが私で
良かったのか…？





そうか…



ムム

少なくとも私は…



貴女に従ってきた事を後悔した事など…一度もありませんよ

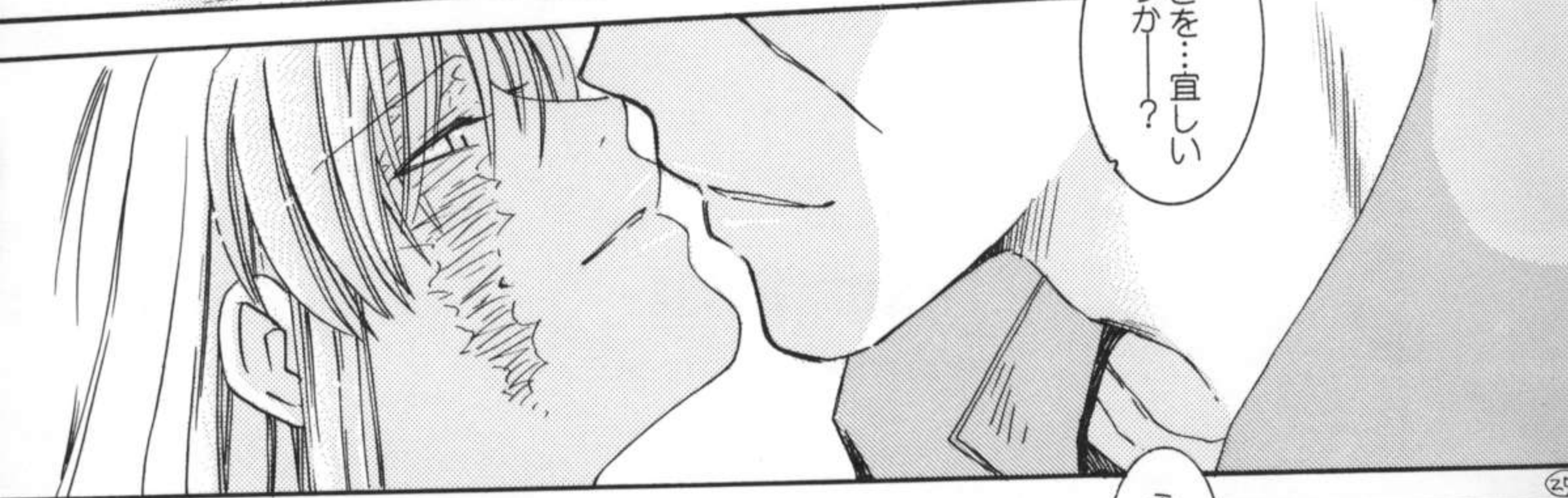
ムム



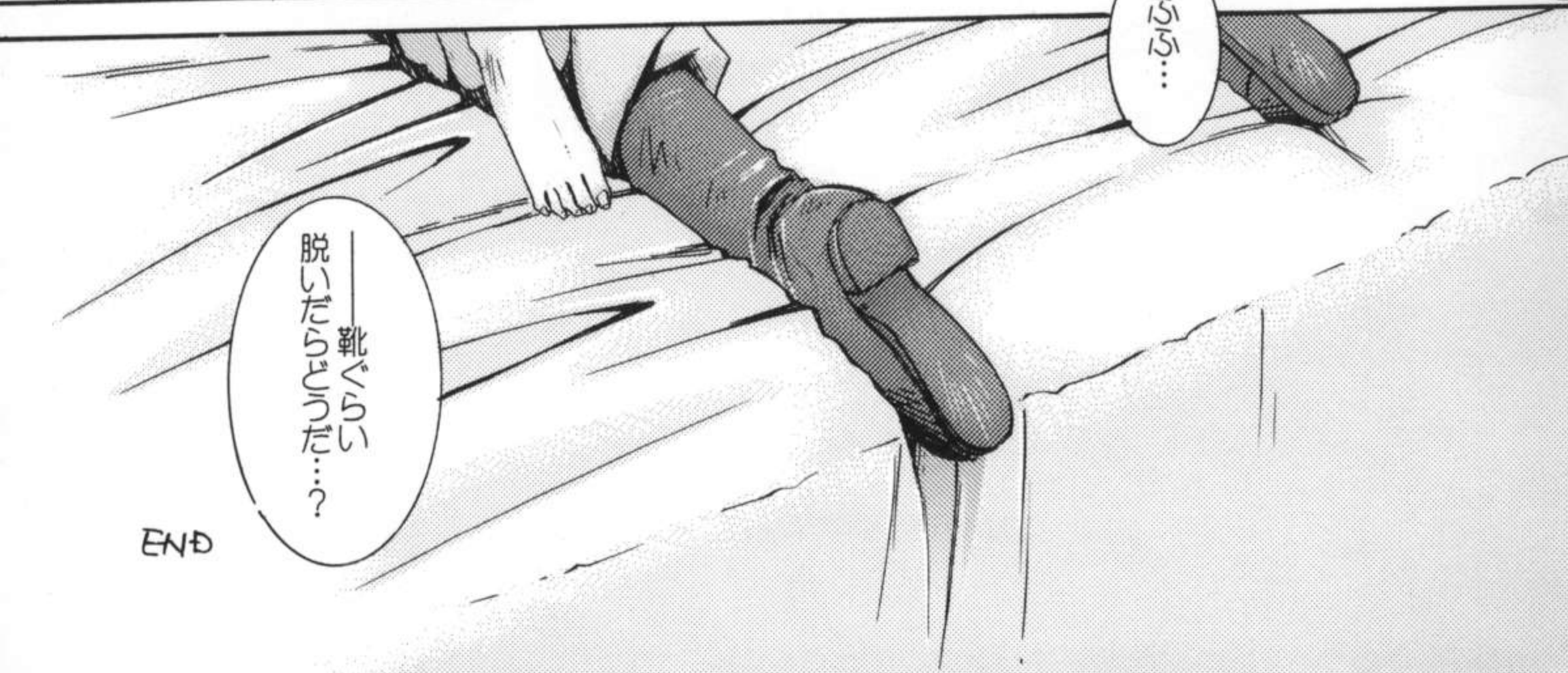
もじもじ…

少々手の掛かる
上官ではありますが
…ね

続きを…直しい
ですか…?



ふふ…



靴べらい
脱いたらどうだ…?

END

という訳でこんな所まで読んで頂いて有難うございます
&お疲れ様でした。軍曹×大尉本、ちょっとでも楽しんで頂ければ嬉しゅうございます♪

今回拳銃やら軍服やら描かせて頂いたんですが…
HIDERO があんまミリ関連アレコレ描くのはちょっとアシかなと。描くの楽しいんですがあたくしごときが描くのはミリに対する冒涇かなとか(笑)何と云うか描きたいのに描けないジレンマ的な。ブラクラの一番美味しいトコ判ってあげられなくてゴメン。(涙目)
その代わり大尉と軍曹イチャイチャさせるので見逃してあげてー!

次回はおそらく赤スーツ大尉と軍曹がしっぽりなさる本になるかと思います。頑張って大尉脱がそうと思います!!頑張って脱がすから…!!!またお会いできますように～♪ではでは…♪

- Heartbeat -

serzhant x kapitan book

発行日/2009.12.29

発行元/めおとにんじゃ。

印刷/(株)大陽出版様

url/<http://meotoninja.harisen.jp/>

mail/hide_gd@yahoo.co.jp

※

禁無断転載

コピー・盗用等も厳禁であります。

※



BLACK LAGOON / SERZHANT X KAPITAN

Heartbeat